

令和6年9月27日

福島大学生物多様性研究室×はげっ子倶楽部 松川浦干潟保護区看板設置お披露目干潟観察会

このたび、本学共生システム理工学類生物多様性保全研究室等の協力のもと、はげっ子倶楽部が、松川浦の3つの保護区に成立した干潟（古湊干潟、大洲再生干潟、グランド干潟）に震災を含む歴史と動植物を紹介した看板を設置しました。このことを記念して、9月29日（日）に「松川浦干潟保護区看板設置お披露目干潟観察会」を開催します。当日の取材方よろしくお願いたします。

主 催：福島大学共生システム理工学類生物多様性保全研究室
はげっ子倶楽部

日 時：9月29日（日）9:00～11:30（雨天決行，悪天候等中止）

場 所：市道大洲松川線古湊干潟駐車場

内 容：松川浦の保護区の看板のお披露目と干潟観察会

持参物：長靴，帽子，タオル，雨具（雨天時）

定 員：30人（先着順）

参加費：無料

今後、設置した看板を活かして観察会などを行うほか、ごみ拾いや外来種の駆除、希少種や干潟のモニタリングを続けていく予定です。

看板の制作・設置：はげっ子倶楽部

看板の設置の費用の一部は「公益信託福島ふるさと自然環境基金」の助成を受けました。

<背景>

2011年3月の東日本大震災の津波により、東北地方南部の海岸防災林は流失、倒壊など壊滅的な被害を受け、福島県相馬市の松川浦でも中州の一部などを除いてほぼ消滅しました。海岸防災林の復旧にあたっては、クロマツの根が十分に張ることができるよう、3 mほどの盛土がなされることになりましたが、盛るための砂が足りないため山砂を用いることになったため、海岸の生き物たちは全て埋め立てられて消失する計画でした。事業を担当した福島県相双農林事務所は、事前の調査により松川浦の事業予定地が絶滅危惧種の宝庫である事を把握し、専門家による「海岸防災林希少種検討会議」を招集。そこでの議論を経て、2013年3月に海岸の一部について、盛土をせずに干潟や湿地を残す保護区の設置を決めました。東日本大震災による海岸防災林復旧事業における全国でも最も早い、生物多様性への配慮策の決定であり、福島県や宮城県での同様な保護区の設置へとつながった画期的なことでした。保護区の設置には、共生システム理工学類生物多様性保全研究室で行われた研究が大きく貢献しました。

設置された松川浦の3つの保護区（大洲国有林保全区域、大洲保全区域、大洲保存区域）にはそれぞれ汽水を導入する水路が残され、潮の満ち引きにより汽水が出入りする工夫がなされています。そのため、3つの干潟（古湊干潟、大洲再生干潟、グラウンド干潟）が成立し、多くの干潟の生き物たちを育てています。また汽水の導入口から離れるに従って塩分が減少し、次第に真水に近くなる生態的な移行帯（エコトーン）が自然と成立しました。全体として、様々な塩分濃度に適応した多様な生き物が暮らす場所となっています。共生システム理工学類生物多様性保全研究室では、保護区設置後の植物多様性の研究や評価を進め、保護区で目的としたハマサジ、ハママツナなどの絶滅危惧種の保全がなされていることなどを明らかにし、学術雑誌や紀要『福島大学地域創造』などに発表してきました。また、これらの保護区が社会的に十分に認知されておらず、活用も不十分であることを指摘してきました。今回の看板の設置やお披露目・観察会は、この状況を改善するために行われるものです。

(付記) 松川浦の保護区設置に関する論文

著者：黒沢高秀

福島大学共生システム理工学類教授

論文題名：東日本大震災前後の福島県の海岸の植生と植物相の変化および植生
や植物多様性の保全の状況

掲載雑誌, ページ：植生情報 第 18 号 70~80 ページ

発行年月：2014 年 3 月

論文 pdf のダウンロード URL

http://shokusei.jp/_userdata/earthquake/20140424-5.pdf

著者：渡邊祐紀*1・黒沢高秀*2

*1 福島大学大学院共生システム理工学研究科

*2 福島大学共生システム理工学類教授

論文題名：東日本大震災により福島県相馬市松川浦に生じた干潟や塩性湿地に
設けられた保護区の植物相および植生

掲載雑誌, ページ：福島大学地域創造 第 27 巻第 1 号 67~92 ページ

発行年月：2015 年 9 月

論文 pdf のダウンロード URL

<https://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000004813/18-245.pdf>

(付記) 松川浦の保護区設置後の植物多様性や評価に関する論文

著者：曲渕詩織*1・渡邊祐紀*1・黒沢高秀*2

*1 福島大学大学院共生システム理工学研究科

*2 福島大学共生システム理工学類教授

論文題名：東日本大震災の復旧事業の際に生物多様性の保全のために福島県北
部の海岸に設置された保護区の植物相と植生

掲載雑誌, ページ：福島大学地域創造 第 29 巻第 1 号 103~142 ページ

発行年月：2014 年 3 月

論文 pdf のダウンロード URL

<https://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000005068/18-288.pdf>

著者：黒沢高秀

福島大学共生システム理工学類教授

論文題名 : Facility against tsunamis and green infrastructure: A case study of post-disaster reconstruction after the Great East Japan Earthquake (津波防災施設とグリーンインフラ : 東日本大震災後の復旧事業のケース・スタディー)

掲載雑誌, ページ : Coastal Engineering Journal 第 63 巻 200~215 ページ

発行年月 : 2021 年 1 月

論文 pdf のダウンロード URL

<https://doi.org/10.1080/21664250.2021.1877916>

各干潟と設置された看板の画像



図に用いた画像等のダウンロード先

<https://fukushima-u.omile.jp/public/A5ZHQIEuO-ActABsnRRydLnR0JzWPYiVSU7edWoH3uF>

(本資料のお問い合わせ先)

共生システム理工学類・教授 黒沢高秀

電話 : 024-548-8201

メール : kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp

(看板に関するお問い合わせ先)

はげっ子倶楽部

電話 : 0244-64-2042

メール : cxh05551@nifty.com